

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】令和4年11月4日(2022.11.4)

【国際公開番号】WO2018/129551
 【公表番号】特表2020-503941(P2020-503941A)
 【公表日】令和2年2月6日(2020.2.6)
 【出願番号】特願2019-536289(P2019-536289)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 17/32(2006.01)

A 6 1 B 1/018(2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/32 5 2 8

A 6 1 B 1/018 5 1 5

10

【誤訳訂正書】

【提出日】令和4年10月14日(2022.10.14)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

20

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

内視鏡と共に使用するための組織除去ツールであって、
 一本のワイヤで形成され、開放位置と閉鎖位置との間を移動可能であり、近位部と遠位部
とにより前記開放位置で規定され、一部がコイニングされたループと、
少なくとも前記ループの前記遠位部に配置され、前記ループの前記近位部よりも細いワイ
ヤを備える切除部と、

伝達アセンブリと、を備え、

30

前記伝達アセンブリは、ハンドルと、リンクとを備え、

前記リンクは、前記ハンドルに取り付けられた第1端と、前記ループに取り付けられた
 第2端と、を備え、前記ループは、前記ハンドルの動作により、前記開放位置と前記閉鎖
 位置との間を移動可能であり、

前記ループの最大幅部は、前記ループの長さの中間点よりも前記ループの近位端に近いこ
 とを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項2】

請求項1に記載の組織除去ツールであって、前記ループの前記長さの前記中間点から前
 記ループの前記最大幅部までの距離は、前記長さの約3%~45%であることを特徴とす
 る、組織除去ツール。

40

【請求項3】

請求項2に記載の組織除去ツールであって、前記ループの前記長さの前記中間点から前
 記ループの前記最大幅部までの前記距離は、前記長さの約10%~35%であることを特
 徴とする、組織除去ツール。

【請求項4】

請求項3に記載の組織除去ツールであって、前記ループの前記長さの前記中間点から前
 記ループの前記最大幅部までの前記距離は、前記長さの約12%~25%であることを特
 徴とする、組織除去ツール。

【請求項5】

請求項1に記載の組織除去ツールであって、支持アセンブリを更に備え、前記支持アセ

50

ンブリは、基体と、細長い管状部材とを備え、前記ハンドルは、前記基体に対して移動可能であり、前記リンクは、前記管状部材の少なくとも一部を通して延びていることを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 6】

内視鏡と共に使用するための組織除去ツールであって、
一本のワイヤで形成され、開放位置と閉鎖位置との間を移動可能であり、近位部と遠位部とにより前記開放位置で規定され、一部がコイニングされたループと、
少なくとも前記ループの前記遠位部に配置され、前記ループの前記近位部よりも細いワイヤを備える切除部と、

伝達アセンブリと、を備え、

前記伝達アセンブリは、

ハンドルと、リンクとを備え、前記リンクは、前記ハンドルに取り付けられた第 1 端と、前記ループに取り付けられた第 2 端と、を有し、
前記ループの最大幅部は、前記ループの長さの中間点よりも前記ループの近位端に近く、
前記切除部は、他の非切除スネアワイヤに配置された切除ブレードを備える切除エレメントであることを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の組織除去ツールであって、前記切除部は、前記ループの前記遠位部において、前記ループの約 $1/3 \sim 1/2$ を含むことを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 8】

請求項 6 に記載の組織除去ツールであって、前記切除部は、前記ループの遠位端から両方向へ約 5 mm ~ 15 mm 延びていることを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 9】

請求項 8 に記載の組織除去ツールであって、前記切除部は、前記ループの前記遠位端から両方向へ約 10 mm 延びていることを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 10】

請求項 6 に記載の組織除去ツールであって、前記切除部は、0.36 mm 以下の直径を有することを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 11】

請求項 6 に記載の組織除去ツールであって、前記切除部は、0.30 mm 以下の直径を有することを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 12】

請求項 6 に記載の組織除去ツールであって、前記ループは、内側ループと外側ループとを備え、前記内側ループは、少なくとも 1 つの場所で前記外側ループに接合され、前記内側ループは、前記外側ループよりも細いことを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 13】

請求項 6 に記載の組織除去ツールであって、前記ループの前記コイニングされた遠位部は、鋭い内側縁を備えることを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 14】

請求項 13 に記載の組織除去ツールであって、前記コイニングされた位置は、前記ループの中心線に対して対称であることを特徴とする、組織除去ツール。

【請求項 15】

請求項 6 に記載の組織除去ツールであって、前記ループは、ねじれ先端を有する中実の矩形ワイヤフィラメントループであることを特徴とする、組織除去ツール。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

10

20

30

40

50

【図 1】図 1 は、回収装置の概略図であり、開放位置におけるスネアを示す。

【図 2】図 2 は、図 1 の回収装置の一部の拡大断面図であり、導管内での閉鎖位置におけるスネアを示す。

【図 3】図 3 は、一般的なケーブル形状デザインを有するループの実施例を示す。

【図 4】図 4 は、一般的なモノフィラメント形状デザインを有するループの実施例を示す。

【図 5】図 5 は、別々のワイヤで形成された近位部と、遠位切除部とを有するループの第 1 実施例を示す。

【図 6 a】図 6 a は、マイクローム又は切除エレメントを有するループの第 2 実施例を示す。

【図 6 b】図 6 b は、マイクローム又は切除エレメントを有するループの第 2 実施例を示す。

【図 7】図 7 は、ねじれ先端を有するループの第 3 実施例を示す。

【図 8 a】図 8 a は、別々のループエレメントを有する第 4 実施例を示す。

【図 8 b】図 8 b は、別々のループエレメントを有する第 4 実施例を示す。

【図 8 c】図 8 c は、別々のループエレメントを有する第 4 実施例を示す。

【図 9 a】図 9 a は、テーパ形状又はグランド部を有するループの第 5 実施例を示す。

【図 9 b】図 9 b は、テーパ形状又はグランド部を有するループの第 5 実施例を示す。

【図 10】図 10 は、コイニングされた(coined)近位部を有するループの第 6 実施例を示す。

【図 11】図 11 は、コイニングされた又はコイニングされていない(non-coined)近位部と、コイニングされた遠位部とを有するループの第 7 実施例を示す。

【図 12 a】図 12 a は、複数のコイニングされた部分を有するループの第 8 実施例を示す。

【図 12 b】図 12 b は、複数のコイニングされた部分を有するループの第 8 実施例を示す。

【図 13】図 13 は、切除エレメントを取り付けるための方法を示すループの第 9 実施例を示す。

【図 14】図 14 は、ループを詳述するループの別の実施例を示す。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

図 5 に示す実施例では、近位部 130 は、フラットワイヤ又はコイニングされた(coined)ケーブルを備える。切除部 140 は、通常、近位部 130 よりも細いワイヤを備える。溶接、接着、圧着、かしめ、はんだ付け、又は、当業者に知られた他の技術により、これらの分離部分を接合することもできる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

図 10 に示された実施例では、ループ 12 は、コイニングされた近位部 130 と、コイニングされていない(non-coined)遠位部 120 とを有するケーブル又はモノフィラメントループを備える。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

10

20

30

40

50

【訂正対象項目名】 0 0 2 6

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 6 】

図 1 1 に示された実施例では、ループ 1 2 は、コイニングされた遠位部 1 2 0 を有するケーブル又はモノフィラメントループを備える。コイニングされた遠位部 1 2 0 は、切除動作を行う鋭い内側縁を形成する。実施例では、近位部を、遠位部に対する垂直面においてコイニングすることもできる。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】 明細書

10

【訂正対象項目名】 0 0 2 7

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 7 】

図 1 2 a、1 2 b に示された実施例では、ループ 1 2 は、組織の切除又は把持に有効となるように、多くの場所 1 8 0 において、コイニングされている。ループは、いくつかの小さなレベルの断面の変化があり、少し長い断面を有し、ループの中心線（垂直及び水平）に対して対称又は非対称である。

20

30

40

50